

AI を利用したサンマ漁場予測の試験運用について

近年のサンマの不漁や、それに伴う減船、外国サンマ漁船との競合といった、厳しい環境の中で漁場探索は、年々難しい状況となっている。それに伴い海況・漁況等情報の重要度が増してきている中で、AI を活用した高精度な漁場予測情報に対する要望も高まってきた。

こうした中、近年 AI 技術が急速に進化しており、既に様々な分野で実用段階に入っていることもあり、JAFIC としてもサンマ漁船の要望に応えるべく、当センターでこれまで蓄積してきた膨大な海況および漁況データを用いて、サンマの AI 漁場予測技術の開発を進めてきた。その結果、ある程度の成果が得られ、3月に記者レクでも報告を行った。

そこで現在、次のステップとして、サンマ漁船に対して実際にリアルタイムに AI 漁場予測情報を配信して、さまざまな角度から、問題点を洗い出して来年度以降の本格運用にむけて、改善点等を見出すために、試験運用を進めている。

本報告では、試験運用として、実際に提供した AI 漁場予測情報の上に利用者の漁場位置をプロットした結果について数例報告するとともに、実際の利用状況と利用者の意見等について報告し、それを踏まえた形で、現在とりくんでいる新たな試みについてご紹介する。

[お問い合わせ先]

一般社団法人漁業情報サービスセンター 矢吹 崇(tyabuki@jafic.or.jp)・中園 博雄

TEL 03-5547-6886 FAX 03-5547-6881